

2020年度定時評議員会議事録

1. 日 時：2020年6月27日（土） 11：00～12：00
2. 場 所：東京夢の島マリーナ2階会議室およびZOOMを使用したオンライン会議
3. 出席評議員（順不同・敬称略）：

北海道セーリング連盟：濱田賢、秋田県セーリング連盟：岡崎真一郎、外洋津軽海峡：荒山雅仁、茨城県セーリング連盟：中村孝一、栃木県ヨット連盟：森谷茲允、千葉県セーリング連盟：伊藤亮一、外洋東京湾：松浦孝志、外洋三崎：鈴木一行、外洋三浦：庄野栄一、外洋湘南：新井五一、葉山マリーナヨットクラブ：村松哲太郎、NPO 静岡県セーリング連盟：杉山武靖、愛知県ヨット連盟：岡田彰、三重県ヨット連盟：原田佳幸、外洋東海：川合紀行、石川県セーリング連盟：石倉喜八郎、福井県セーリング連盟：鈴木規之、大阪府ヨット・セーリング連盟：岩崎洋一、兵庫県セーリング連盟：西尾隆、和歌山県セーリング連盟：山口慶一、外洋内海：山岡閃、NPO 岡山県セーリング連盟：岩崎裕児、(社) 山口県セーリング連盟：小泉周三、外洋西内海：山田孝治、香川県ヨット連盟：九富潤一郎、熊本県セーリング連盟：岡村哲夫、大分県セーリング連盟：五十川浩司、宮崎県セーリング連盟：樋口ゆみか、鹿児島県セーリング連盟：榮樂洋光、外洋玄海：沼田浩行、全日本学生ヨット連盟：杉山嘉尚、(財) 全国高等学校体育連盟ヨット専門部：古屋勇人、全日本実業団ヨット連盟：外尾竜一、日本視覚障害者セーリング協会：秋山淳、日本 470 協会：三船和馬、日本レーザークラス協会：加藤重雄、日本 IRC オーナーズ協会：石渡一夫

以上、出席 37名

その他出席者（順不同・敬称略）：

会長：河野博文、副会長：中川千鶴子、桑原啓三、中澤信夫、専務理事：川北達也、常務理事：坂谷定生、富田三和子、理事：平松隆、中野佐多子、安田大助、尾形依子、作田智恵子、橘田佳音利、長塚奉司、高橋祐司、中島量敏、大西治夫、森田豊三、黒川重男、磯部君江、岡村勝美、菊池邦仁、新田肇、中村和哉、宇都光伸、斎藤渉、関一人、高間信行、監事：児玉萬平、上野保、紙谷雅子、参与：小山泰彦、望月宣武、顧問：秋山雄治、委員会委員長：安藤総務委員長、松田財政委員長、増田ルール委員長、棚橋ドーピング裁定委員長、オブザーバー：永井真美、吉留容子、井上宏、西村隆、徳田恭紀、玉置純、中村隆夫、加賀谷賢二、岩瀬喜貞

以上、その他出席 47名

4. 議事の経過および結果

新型コロナウイルス感染症対応のためオンライン会議システム ZOOM を併用し開催し

た。出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わることを確認し、適時的確な意見表明がお互いに来る仕組みになっていることを参加理事に確認していただき、議案の審議を下記のとおり開催した。

(定足数の確認)

評議員 50 名中、出席 37 名で、定款第 19 条に基づき定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

定款 18 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は古屋勇人評議員に決定し、2020 年度定時評議員会開催の宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、秋山淳、鈴木一行の両評議員が任命され、承認された。

(河野会長挨拶)

オンライン会議などを使用し、評議員会に参加いただき御礼申し上げます。新型コロナウイルスで各地域、様々な影響を受けたと思われます。心からお見舞い申し上げます。今回、オンライン会議で評議員会を開催するのも新型コロナウイルスの産物で、合理的な面もあり今後、上手く併用し活用していければと考えています。新型コロナウイルスで、ウィンドサーフィン協会の長谷川会長。以前から闘病中であった、江の島ヨットクラブ前会長の青山篤様ならびに奥様。先日には森信和国体委員長が逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

本日の評議員会は、2019 年度事業報告および決算ならびに、理事選任等の重要な議題につきまして、ご審議いただけますようよろしくお願い致します。

新型コロナの影響でたくさんの影響が出ている中、スポーツ界全体が忘れられかけられている。何とか脱却しなければならない。セーリングの日本代表候補選手も練習の再開ができた。今年の夏～秋にかけては様々な大会を行っていきたいと思う。来年の東京オリンピックも何とか開催したいと念願している。安心、安全に大会を行うためのガイドラインを作成し公表した。是非、作成したガイドラインを使用し大会を行って欲しい。鹿児島国体は延期、三重リハーサル大会は中止となったが、その他の大会で是非ともセーリング界を盛り上げて欲しいと思っています。この一環として、選手たちにオリンピック本番前の調整、運営に携わる方々にも最後の確認という意味で、今年開催予定だったワールドカップに代わる国際大会をオリンピック本番前に予定している。

また、学生もコロナの影響を受け大変苦勞している中で、何とか競技を続けてもらうために会費の免除の決定をした。決して免除を行うための金額は決して安くはない。現在、会費免除のための募金を行っている。この場を借りて、評議員の皆さまもご協力をいただきたい。

オリンピック代表候補選手も練習を再開したが、コロナの影響でスポンサーの事情が変わり、JSAFとして最大限の協力、支援を行いたい。

JSAF自体も財政難になりつつある。このような状況だが、JSAFの会員を継続していただき財政基盤を確立していきたい。会員増強プロジェクトは非常に重要である。評議員の皆さまも、ご協力いただきたい。

スポーツ界の底力を見せていきたいとの挨拶があった。

5. 議案

1) 2019年度事業報告(案)及び決算報告(案)について

川北専務理事から資料に基づき、2019年度事業報告(案)について説明があった。

2019年度は、基本方針に、スポーツ・インテグリティの向上、セーリングの魅力の普及啓発、東京2020に向け、次世代を含む選手の育成とスタッフの強化、日本セーリング界の持続可能性活動の開始を挙げ、当初に下記3項目に関する実行計画を立案した。3項目とも下記の点について目標を十分達成し、大きく前進した年度であった。しかしながら、JSAF会員数は減少の歯止めがきかず、1万人を割り、2020年度に向け、規模、財政の両面での課題が浮き彫りになってきた。また、2月に入り、コロナ禍が世界に拡大し、3月24日にはオリンピックの1年延期が決定され、新たな課題も提示された。

1.セーリングスポーツの普及、発展と安全確保。

ジャッジ、レースオフィサー、メジャーなどのレースオフィシャルズの育成強化による質の高いレースの実現。委員会横断での「事故報告」収集による安全対応情報展開の仕組構築。日本財団助成による「海と日本プロジェクト」、マリンカーニバル、小学校訪問授業等による1万人を超えるセーリング未知者との接点拡大。過去に例のない70名を超える指導者講習への参加によるスポーツ・インテグリティ向上に向けた土台作り。国際大会でのe-sailingの普及とファン構築。チャイルドルーム運営(含む国際大会)による女性選手、運営者参加の拡大。

2.東京2020に向けた選手の更なる国際競争力の強化

候補選手の活躍による国際大会の入賞や、国枠獲得。また、11種目中、10種目の内定により、勝利への弾み。JSAFが加盟団体と一体になって、全国のレースオフィシャルズ参加による国際レベルトレーニング実施により、2020TOKYO成功に向けて準備固め。次世代選手の国際大会での活躍。広報活動強化によるTopアスリートの一般への認知拡大。パリ大会に向けた外洋艇選手強化体制の準備。

3.メンバーや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成

ガバナンスコード制定に即応したコンプライアンス教育の立上げ。2019年3月に設立した「海その愛基金」を活用して、小笠原、パラオ共和国、小学校訪問授業、音楽フェ

スティバルへの出展などを通しての海洋環境クリーン活動の訴求。JSAF ビジョン制定によるセーリング界が向かう方向性の共有。

2019年度は無事に事業を終えることが出来たと報告があった。

松田財政委員長から資料に基づき、2019年度決算（案）について説明があった。

2019年度の当期収支は19,003千円の黒字になった。

事業活動の収入の合計は788,000千円、支出の合計が756,000千円となり収支差額は32,000千円の黒字となった。投資活動面では、予算段階で予定していた特定費用準備積立金の取り崩しは行わず、8,760千円の積立預金支出を行っている。

管理費・その他では、メンバー会費の収入が前年比742千円減の5,300千円、賛助会費の収入も350千円減の5,750千円となった。支払消費税のためオリンピック準備委員会、オリンピック強化委員会の繰り入れを行っている為、収支では10,800千円の黒字計上となっている。

コーポレート委員会については17,000千円の赤字になっている。前年比880千円の増加している状況。

各事業関係の委員会については、合計33,000千円の収入超過となっている。オリンピック強化委員会の収入が231,000千円で支出が203,000千円で27,000千円の黒字になっているため。日の丸セーラーズ支援金、オリンピック準備委員会から20,000千円の収入から繰り入れたこと、一方新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け2020年3月以降のヨーロッパ遠征などのキャンセルしているため、支出が減になっていることも要因となっている。東京オリンピック準備委員会の収入が138,000千円、支出が135,000千円で3,100千円の黒字になっている。第3次補正予算で予定していた39,800千円の特定準備金の取崩しは行っておりません。外洋常任委員会が2,300千円の黒字、環境委員会の1,970千円の黒字、その他の委員会についても予算内通りであった。

国際大会開催事業については4大会を開催し、1大会が台風の影響で中止になった。収支は均衡されていた。

前期までの繰り越し収支分、108,230千円と合計し2020年度に向けた繰り越し収支は127,233千円となった。新型コロナウイルスの関係で、公益認定委員会からも収支の状況については収支相償の観点からも問題ないと確認いただいた。2020年度は新型コロナの影響もあり、今後収入、支出に差額が生じる可能性があると思われる。適時、入出金の把握も務めていきたい、と説明があった。

児玉監事から、2019年度決算報告の監査報告があった。事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実認められない。計算書類及びその付属

明細書並びに財団目録は、法人の財産及び損益の状況を適正に示しているものと認めるとの発言があった。

2019年度事業報告は、棄権0、反対0、満場一致で承認された。

2) 2020-2021年度理事選任について

川北専務理事から平賀威役員推薦候補者管理委員長からの事前配布資料に基づき、2020-2021年度理事推薦候補者について提案および決議方法の説明があった。

2019年11月30日の理事会決定を受け、役員推薦候補者管理委員会で理事推薦候補の選出管理を行い、全国加盟団体代表者会議による理事推薦候補者について、1月25日開催の全国加盟団体代表者会議にてご説明し、手続きを開始した。2月27日に理事推薦候補者の立候補を締め切り、定款22条の要件、その他理事会内規に基づく要件を確認した。

会長推薦候補者1名は定数と同数であったため、推薦投票は行わず、推薦した。一般の理事推薦候補者は12名が立候補し、定数を超えたため、推薦投票を行った。3月2日までに確認できた全国加盟団体代表者に投票用紙を発送し、3月19日に投票を締め切り、投票総数189票（うち白票・無効票なし、有効投票数189票）であった。開票の結果一般推薦理事枠が8名のところ8位の得票数が同数で2名いたため、投票結果が同数の場合の処置として最終選考「くじ引き」の結果、富田三和子氏を一般推薦理事とし、投票数上位8名を一般理事推薦候補者とした。尾形依子氏は女性特別推薦とし、尾形氏も含む女性の得票数上位3名を女性特別推薦理事推薦候補者とした。会長推薦候補者1名、一般理事推薦候補者8名、女性特別推薦理事推薦候補者3名の合計12名を全国加盟団体代表者会議による理事推薦候補者として推薦する。

水域理事推薦候補13名の選出について3月2日に各水域に依頼し、4月8日に締め切った。定款22条の要件、その他要件を確認し、水域理事推薦候補として推薦した。

河野会長に依頼し5月19日までに選出された会長推薦理事候補5名について、定款22条の要件、その他要件を確認し、会長推薦理事推薦候補として推薦した。3月2日にアスリート委員会、障害者セーリング推進委員会に依頼して4月8日までに選出されてきた2人について、定款22条の要件、その他要件を確認したところ、合致していましたので、委員会推薦理事推薦候補として推薦いたします。以上、32名の理事推薦候補者の選出について報告があった。

会長推薦候補の河野博文氏は反対0名、棄権0名、満場一致で承認された。

全国加盟団体代表者会議による理事候補者8名（敬称略）川北達也、大村雅一、望月宣武、平松隆、宮野幹弘、中村和哉、永井真美、富田三和子は反対、棄権はなく反対0名、棄権0名、満場一致で承認された。

女性特別推薦理事推薦候補者 3 名（敬称略）尾形依子、中野佐多子、橋田佳音利は反対 0 名、棄権 0 名、満場一致で承認された。

水域推薦による理事候補者 13 名（敬称略）、長塚奉司、高橋祐司、中島量敏、加賀谷賢二、森田豊三、黒川重男、磯部君江、吉留容子、菊池邦仁、新田肇、岩瀬喜貞、安田大助、宇都光伸は反対 0 名、棄権 0 名、満場一致で承認された。

会長推薦理事候補者 5 名（敬称略）、中川千鶴子、桑原啓三、馬場益弘、中澤信夫、中村隆夫は反対 0 名、棄権 0 名、満場一致で承認された。

委員会推薦理事候補者 2 名（敬称略）、関一人、高間信行は反対 0 名、棄権 0 名、満場一致で承認された。

3) 評議員会からの評議員選定委員の選任について

古屋議長から、評議員会からの評議員選定委員の選任について説明があった。

評議員選定委員会の委員のうち、評議員たる委員は「定款」第 1 2 条 2 項および評議員の選定委員会運営規程の第 2 条に基づき、評議員会の決議をもって選任することとなっている。これまで評議員選定委員を務めていただいた杉山評議員が今期で退任されますので、後任として千葉県セーリング連盟の理事長、伊藤亮一評議員に、評議員選定委員に提案する旨、発言があった。

古屋議長から各評議員に意見を求めたが、意見、質問などは特になく決議に移った。各評議員に反対、棄権の意見はなく反対 0 名、棄権 0 名、満場一致で承認された。

5) 評議員からの質疑・意見

鈴木一行評議員から事前に、理事、監事への質問、2020 年に向けての質問をさせていただいた。先の見えない非常状況の中、JSAF として組織を守ろうとした際に注意しなければならない面について、全員に周知する目的で質問させていただいた。JSAF として注意しなければならない点は 2 つあり、不祥事と資金の問題だと思っている。は国の予算から出ている補助金、2019 年で 3 億円以上補助されている。斎藤会計担当理事からの回答で異議はない。補助金を使う側の現場レベルまで徹底していただきたいとお願いがあった。2020 年の問題について川北専務から回答をもらっており、こちらも異議はありません。一部の人でなく全員で、この問題に取り組みたいと思っている。また、評議員会の意見が少ないため今後、評議員の方々も是非もっと質問して欲しいと発言があった。

6) 報告事項について

川北専務から資料に基づき、新常任委員会メンバー（案）、会員増強プロジェクトについて説明があった。

新常任委員会メンバー（案）については、評議員会終了後の理事会で審議決定される。時間のある評議員は傍聴いただくことも可能です。

会員増強プロジェクトは、6月16日時点で、約7000人、会員登録されているが、前年と比べ一般会員が減少している。大学生は会費免除の効果もあり増加した。高校生は4分の1程度になっている。ジュニアも半分程度となっている。また過去9年間連続で会費を支払っている会員は2,700名となっており、年会費の支払忘れの会員が多くいることが分かっている。大学生の会費免除にしているが、必要な費用が発生している。この費用に対して募金を募集している。6月26日現在で1143万円集まっている。当初の予定としては1300万円を目標にしていたが、大学生会員の増加で1400万円に変更すると発言があった。

以上、2020年度定時評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

2020年6月27日

会 長 河 野 博 文

議 長 古 屋 勇 人

議事録署名人 鈴 木 一 行

議事録署名人 秋 山 淳